

## NHK への再質問状の添付資料

NHK「坂の上の雲」を考える宮城県有志の会

### 資料 1

#### 「坂の上の雲」への私たちの質問状に対する NHK 回答を読んで (1935 生・女性)

・小説「坂の上の雲」が戦争賛美の姿勢で書かれたものではないとは、質問状では言っていない。この小説が戦争を美化しているからこそ、私は、そのドラマ化も、まして公共放送にのせることも、憲法の平和主義に反すると考え、許されないことだと考えるのです。

司馬遼太郎が、映像化すればミリタリズムを鼓吹しているようにみられるからと拒否していたことをもって、彼が戦争賛美をしていなかった、ということとはできないと思う。その意図はどうであれ、作品そのもので私たちは判断するのです。

・この作品が、現代日本にとって、どんなヒントがあるかと考えるのでしょうか。質問 4 はその点をおたずねしているのに何も答えず、同じ言葉をくり返しているのです。

・私たちは答えやすいように、1～5 にわたって項目別に質問したのに、何も答えていません。回答書の体をなしていないこのような文を回答として出すのは、無責任ではないでしょうか。

### 資料 2

#### 「坂の上の雲」への私たちの質問状に対する NHK 回答を読んで (1936 生・女性)

NHK「坂の上の雲」エグゼクティブプロデューサー菅康弘氏からの回答は、視聴者を馬鹿にした慇懃無礼の一言に尽きます。

まず、私達が質問状で回答を求めた相手は、ドラマの制作者ではなく、ドラマを放送している責任者としての会長なのです。国民からの受信料で、戦争賛美的ドラマを「大河ドラマをこえる規模」の予算を注ぎこんで製作していること自体問題ですが、それを、天下のNHKと云う公共の電波を使って長期間放送し続けることをこそ問題にしているのです。

エグゼクティブプロデューサーは会長の代理として通用するともお思いなのでしょうか。会長は、私達の質問状に目を通されてから側近に「適当に頼む」とでも仰言ったのでしょうか。それとも、会長のお目を汚すのは畏れ多いと握り潰し、エグゼクティブプロデューサーの回答となったのでしょうか。弔辞や祝辞の代読は空々しいものですが、視聴者の会長に対する質問状に対して、プロデューサーの代返でお茶を濁すのは失礼です。

次に、その回答の内容ですが、これも全文、事実を偽った不誠実なもの。まず、「司馬氏は小説『坂の上の雲』を戦争賛美の姿勢で書いていません」とありますが、それなら何故氏は「そう誤解されることを恐れていた」のでしょうか。氏御自身「坂の上の雲」の出版後、交友や

知見を深められる中で、戦争賛美と誤解される惧れのあることを認識されたからこそ、映像化を拒否されたのではないのでしょうか。

「映像化の許可を司馬遼太郎氏夫人の福田みどり様よりいただき」とありますが、原作者司馬氏本人の生前の意志に反して夫人に映像化を承諾させた一司馬氏の意志を抹殺したNHKは、人の道に反してはいませんか。

小学生だった私ですら、書き損じたノートのは破り捨ててましたし、自分の納得できない絵は焼き捨てた画家もいます。小説「坂の上の雲」の映像化を固く拒否された司馬氏は、安らかな眠りを妨げられ、あの世で怒り悲しんでいらっしゃるのではないのでしょうか。「原作を出来る限り尊重し生かす形でドラマを制作している」とのことですが、質問状にあるように、原作には無いシーンを入れ、登場人物が平和主義者であるかのように描き、日本の軍国主義を美化するドラマに仕立てあげています。

「近代国家の第一歩をしるした明治のエネルギーと苦悩を描いている」と仰言いますが、登場する主役は軍人で、農村や市井の労働者の生活は殆んど描かれず、軍人や文人、政治家の“苦悩”は創作された“ポーズ”、庶民は日露戦争の勝利に湧く無神経な侵略国家の楽天的な姿を描いているだけです。そのどころが「混沌とした国際情勢の中にある現代日本にとってのヒント」なのではないでしょうか。具体的に答えていただきたいのです。

回答で唯一真面目に答えているのは、ドラマ「坂の上の雲」の制作費は？と云う質問に対するもので、「大河ドラマをこえる規模」であるとのことですが、具体的に公表することは憚られるのか、数字は示されませんでした。(受信料を払っている視聴者には、その使途金額を知る権利があると思うのですが)。何よりも私達を愚弄しているのは「今後ともスペシャルドラマ『坂の上の雲』へのご支援、ご理解をよろしくお願い申し上げます。」と云う結びです。

NHKドラマ「坂の上の雲」が、軍国主義者を平和主義者として描いたり、日本の朝鮮侵略を正当化する等、戦争を知らない世代は勿論、国際的にも問題のあるドラマだからこそ、私達が批判し質問状を会長宛に送ったのです。このような慇懃無礼なNHKの回答に抗議し、私達の質問状に沿って会長が真面目に回答されるよう改めて要請致します。

### 資料 3

#### 「NHKの姿勢に思うこと」(1933 生・男性)

1. NHKのお客様満足度活動について。

・お客様満足度の向上活動を全職場で推進します。

(’06 計画)

・質が高く満足感のある多彩な番組の編成をします。

(’07 約束)

・「すべては、視聴者の皆様のために」を貫き、経営を変えます。(’09 目標)

これらはいうまでもなく、毎年、NHKが発表してきた計画や目標の一部です。

立派な目標を掲げるのは当然ですが、前後に「相次ぐ不祥事への反省を踏まえ」(09)とか、「組織風土を改革し」(07)、「職員の意識改革し」(06)などであるのは異例だったでしょう。

反省や改革を要する事情を踏まえての態度表明とあつては、単なる美辞や空約束にとどまらない真摯なものであり、視聴者志向の実践であろうと、誰もが受け止めたに違いありません。

しかし、今回の回答はどうでしょうか。

私たちの質問は、番組に主義主張を持ち込もうとか、商売や利権でゴネ得を狙っているのではありません。番組を視聴することで私たちの生活が充実するようにと考えて、この質問を提出した次第でした。しかし、宛先、当事者からの回答がなかったことは質問の無視同然に思われます。

また、その回答内容は、回答者が替わっているのに、先年、某氏へ答えたものと殆ど同じ内容であることが判りました。その失礼、無神経さに呆れましたし、実に残念でなりません。

頂いた回答では、お客様満足度への配慮も、視聴者志向の姿勢も、全然感じられません。

お客様満足度云々の前に、「真摯な質問には真摯な回答を」という姿勢が必要だと思います。

## 2. 隣国・朝鮮への配慮について。

原作でもドラマでも気になったことは、隣国・朝鮮への配慮不足です。

昭和20年に初等科を終了した私の同級には、4年7ヶ月年長である朝鮮人のT君がいました。

T君は図体は大きいのですが、授業は全然理解出来ないように思われました。彼が来日した経緯は判りませんが、創氏改名だけは確実です。最近「族譜」をテーマにした演劇を見て、姓を重視する朝鮮人の民族感情を知るに及んで、この政策の暴挙さが痛感されたものでした。

また先年、松代の大本営跡を見学したときのことですが、1944年11月から'45年8月まで朝鮮人約7,000人が劣悪な待遇のもとに昼夜兼行で働かされたこと、それが今までは問題になっていないので現地ではあまり騒ぎ立てて欲しくないような意識でこの跡地を管理し、公開に当たっているらしいことが、強く感じ取られました。

これらの民族差別は数少ない私の体験例ですが、こうした歴史に配慮するならば、作品の底流には朝鮮への謝意や、「低姿勢」のメッセージがあつて然るべきだと思います。

しかしこのTVドラマでは、朝鮮は本来「主役」のような立場なのにまるで無視する一方、その朝鮮観には、不遜とか、思い上がりのようなものさえ感じられました。

NHKは、ひざろ公共放送とか国際理解の促進とかを強調していますが、番組を見る朝鮮の方々への不満を思うまでもなく、NHKにはもっと謙虚さが欲しいと思われました。(了)

## 資料4

### NHKからの「回答」文に唖然 (1948生・女性)

2年前の2009年10月14日にえひめ教科書裁判を支える会と「坂の上の雲記念館」の問題を考える会が日本放送協会会長(福地茂雄氏)宛に公開質問状を提出しました。それに対する回答文書は次の通りです。

- ① 司馬遼太郎氏は小説「坂の上の雲」を戦争賛美の姿勢で書かれたものではありません。スペシャルドラマ「坂の上の雲」は司馬氏のこうした思いを生かしたかたちで制作するものです。
- ② 近代国家の第一歩を記した明治のエネルギーと苦悩をこれまでにないスケールのドラマとして描き、
- ③ 現代の日本人に勇氣と示唆を与えるものになりたいと思います。なにとぞ、ご理解いただきたく存じます。

平成21年11月4日 日本放送協会  
放送総局「坂の上の雲」プロジェクト  
エグゼクティブプロデューサー 西村 与志木

今回私達が提出した質問状に届いた回答文書は、大震災に対する通り一辺のお悔やみに続き、NHKに対し高い関心とご理解云々の筋違いのナルシストの文言。そして注目すべきはその続きです。

いささか面倒ですが転写します。

質問状に書かれていらっしゃる通り① 司馬遼太郎氏は小説「坂の上の雲」を戦争賛美の姿勢で書いてはいません。むしろそう誤解されることを恐れていました。…中略…原作を出来得る限り尊重し、生かす形でドラマを制作しています。② 近代国家の第一歩をしるした明治のエネルギーと苦悩をこれまでにないスケールのドラマとして描いています。その中に、混沌とした③ 国際情勢の中にある現代日本にとってのヒントがあるのではないかと考えております。 以下略……

NHK放送総局「坂の上の雲」プロジェクト  
エグゼクティブプロデューサー 菅 康弘  
一字一句違わぬ箇所が数行ある事が解ります。

①②…③はほぼ同じ意味

対話のルールというものがあるでしょうに…笑い種物です。

私達市民の真摯な態度に全く目を向けようとしぬ事が判明しました。

話はちょっと逸れますが数日前の某新聞に「今心ひかれる『明治人』」と題して20人の人物が紹介されていました。

トップは勝海舟、4位が伊藤博文、5位が福沢諭吉、ここまでは写真と功績付で、名前だけでは17位東郷平八郎、18位小村寿太郎とあります。

この現象は戦後日本における教育の歪みなのでしょうか。国を奪われた私の目からすればこれらの人物はおぞましき存在なのだ。

混迷の時代に入ったといわれて随分経ちますが回答文書の中に「混沌とした国際情勢の中にある現在日本にとってのヒントがあるのではないかと考えております。」との文面がありました。歴史から正しい教訓を得ないままの日本が、万万がいちにも100年前の手法(?)を用いるのではあるまいかと危惧します。

いつも心に命じるは、正当な立場で、とにかく歴史を学び続けそこから教訓を得て戦争をしない人間社会造りに前進しなければ…(了)

## 資料 5

### 「坂の上の雲」への私たちの質問状に対するNHK回答を読んで (1942生・男性)

2月28日に出したNHKへの質問状、私たちはこのドラマに対してずいぶん語り合っ、これらの質問は、このドラマには問題点があることを確認し、少し考えれば平和に、そして世界の人々、特に朝鮮や韓国、中国、アジアの人々と友好的関係が大切だと思ふ人ならば誰でも、こういう疑問が出て不思議が無いということ、即ち、NHKは真剣に検討すべき内容だとそういう事項(5つ)を選んだと思うのです。

それがこういう回答が出てくるとは驚くばかりです。はじめに日清戦争の主戦場が朝鮮であり朝鮮に甚大な被害を与えたことが、なぜ出ないのですか?…答えてない。

「甲午農民戦争」など朝鮮の人たちの日本の侵略に抗した闘いがあったでしょう。…答えてない。

明成皇后暗殺まで日本はやったこと…答えてない。伊藤博文が「臆病な平和主義者」として描かれているのは農民虐殺、皇后暗殺の承認など実際と違うのでは?…答えてない。

ドラマの製作意図「現代日本人に勇気と示唆を与える」とは具体的に?…説明なし。おなじ言葉を言い換えただけ。

制作費は?…大河ドラマより多い。

会長さんが答えないのはおかしい。菅さんは会長の意を載して答えたのでしょうか?

その場合、貴方が書いて会長の決裁を貰って、会長名で回答すべきと思いますが。

失礼だと思います。

エグゼクティブとは、辞書では管理職的や、経営側の意味のようですが、そういう立場の人は報道やドラマやその他番組の性格、内容については考えないのでしょうか。

そうではなく、こういう質問を出す人たちの言うことははじめから聞く耳持たぬ、なのではありませんか?

戦争賛美ではない。近代国家への明治のエネルギーと苦悩を描いた。現代日本にとってのヒントがある。など、繰り返された製作意図の言葉の中に、それを感じます。

質問を真剣に答えようとしたらそんな言葉は出ないと思うからです。

私たちはNHKにさらに質問、反論しながら、多くの国民にも考えてもらう運動をつづけなければならないと思います。